

「安心・活力・発展プラン2005」 第2回安心部会 委員発言要旨

日時：平成26年10月6日（月）15:00～17:00

トキハ会館5階「ローズ」

No.	項目	発言要旨
1	福祉一般	福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。
2	出会い応援	出会う場があるだけでは足りない。声をかける人、場につないであげる人が必要。
3	子育て支援	子育ての項目に「働く女性の支援」というキーワードが必要ではないか。
4		子育て支援策について、市町村間で格差、温度差があるので、県からも市町村へ助言、指導してほしい。
5		20歳で子どもを産むのと35歳で子どもを産むのとではどうしても違いがある。子育て支援策に母体の安全に関する教育を入れるべきではないか。
6	ひとり親支援	ひとり親家庭、とりわけ母子家庭の貧困対策について、仕事の斡旋まで含めて政策を考えるべき。
7		母子家庭の就労支援について、福祉保健部と商工労働部が連携しながら、しっかりと就労につながる仕組みを構築していくことが重要。
8		ひとり親家庭はワークライフバランスが整わない。延長保育への助成や子育ての困り事を相談できる場所づくりが必要なのではないか。
9	貧困対策	格差拡大、貧困の連鎖の防止という視点も今後は重要。
10	高齢者支援	認知症介護を経験した人が認知症介護で悩む家庭を訪問する等、高齢者を介護する方への充実してほしい。
11		自分の親が認知症になった時に相談する所がない。専門家につなげるようなコールセンターを作ってはどうか。
12		世間に名の知れた企業が悪質商法を行っている。アイネスにもう一段の努力を、商工労働部には企業側への指導の強化をお願いしたい。

No.	項目	発言要旨
13	高齢者の活躍	防犯パトロールに加わりたいという高齢者が、どこに相談したら良いかわからないという声を聞く。高齢者の活用にもっと取り組んでほしい。
14		健康寿命を延伸させるには、高齢者に人材が不足している福祉分野で活躍してもらえば良い。そのためにアナログで情報を伝えていくことも大切。
15	障がい者支援	触法障害者支援について触れるべき。
16	医療	「精神科医療体制の充実」という漠然とした言葉ではなく、「精神科救急と長期入院の是正」を明確に入れてほしい。
17	環境	環境と農業と食育とツーリズムについて、それぞれの施策は入っているが、連携した姿が見えない。次回部会には連携策を示してほしい。
18		大分県はバイオマス発電を行いやすい地域であり、そのためには森林の育成が大事。
19	食育	食育については、生活環境部・福祉保健部・教育委員会が連携して取り組んでほしい、
20	人権	不登校の子どもたちが集まるような団体に土地は譲渡できないと地主から言われた。これは人権の問題だと思う。
21	多様性	「心豊かに暮らせるためには」の論点「価値観の多様化への対応」はやや消極的ではないか。「多様性の創造と寛容性の醸成」というように、寛容な風土の醸成と社会的包摂の理念を打ち出した方が良いのではないか。
22	女性の活躍	子育てや介護と両立する職場づくりには、行政や企業等の役員・管理職の女性比率を高めることが早道。
23	集落対策	キーワードから買物弱者対策が漏れているのではないか。
24	地域づくり	障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。
25		バスやタクシーの代替ではなく、自家用車の代替機能を果たす、有償ボランティアによる移動支援を推進することが必要。
26		地域おこしに頑張っている学生等の姿を情報発信することが、地域で頑張りたいという人が動き出すきっかけになるのではないか。

No.	項目	発言要旨
27	若者支援	高齢者だけでなく若年層においても仕事の場を確保するという視点も盛り込んでほしい。
28	外国人労働者	外国人労働者については、労働力としてではなく、外国人住民の意識を持って、彼らが地域社会で孤立しないように必要な支援をしないと、禍根を残すことになる。
29	アート	引きこもりの方や社会的に不適合となっている子どもたちに対するアートの活用も検討してほしい。